

第19回 麻布大学 生殖・発生工学セミナー

「体外での配偶子形成」にあたって

柏崎 直巳・伊藤 潤哉

麻布大学 獣医学部 動物繁殖学研究室

哺乳類の配偶子は、始原生殖細胞を起源として、生殖腺で減数分裂を経て形成されます。この間にゲノムは半減し、性特異的なエピジェネティックな修飾を受け、生殖系列特異的なイベントがおきる特殊な過程であります。この過程を体外細胞培養系で再現することは、配偶子形成のメカニズム探索するうえでも、さらには不妊症等の原因究明やその治療法の開発、あるいは生殖・発生工学の観点からも非常に意義深いものでもあります。

今回の本セミナーにお招きした講師の皆様は、この分野で世界をリードする研究者で、小川 毅彦先生（横浜市立大学）は体外での精子形成、平尾 雄二先生（農研機構）は卵母細胞の体外発育、林 克彦先生はiPS細胞を始原生殖細胞に分化誘導させることによる配偶子形成、でたいへん顕著な研究業績を有しておられます。講師の先生方から最新の研究成果をご紹介いただき、これからの生殖・発生工学分野での展開を参加者の皆様と一緒に考えていきたいと存じます。